



教育活動を振り返るTPチャート 個々の軸を確立し、組織づくりへ

授業をはじめとする教育活動の改善に役立つツールとして、TPチャートが評判です。編集部では個々の先生方がご自身の活動を振り返り、これからにつなげていくプロセスが、組織全体の改革にも必要と考え、ワークショップを取材、学校改革への道筋を探りました。

**方法・方針・理念の可視化で
自分は何を目指すかが明確に**

TPチャートは、教育活動の俯瞰と振り返りを通して、自身の教育のあり方を改善していくツールだ。

まず作成段階で、普段の活動でどんな「教育方法」をとっているかを書き出し、そこから自分の「方針」を見出し、「理念」を可視化する。

次いでそれを見直し、「理念」「方針」「教育方法」の対応を確認しミスマツチや過不足がないか考え、それぞれの結びつきを自分でより強固にする。

この2段階を通して、自分は教育で何を目指し、そのために何に取り組みたいかを明確にしていくのだ。

もともとこのツールは、ティーチング・ポートフォリオ（TP）という、教育活動とその根拠資料をまとめたファイル（38ページコラム参照）の作成に興味のある人向けに開発されたものだった。東京大学の栗田佳代子先生が、TP作成を簡略的に体験できるツールとして考案、同大の吉田 壘先生と共に、その形式をブラッシュアップさせてきた。

そのTPチャートを、勉強会で体験した高校の先生たちが、単体でも教育改善に効果があると実感し、注目するようになる。都立国立高校の大野智久先生は、いち早くTPチャート

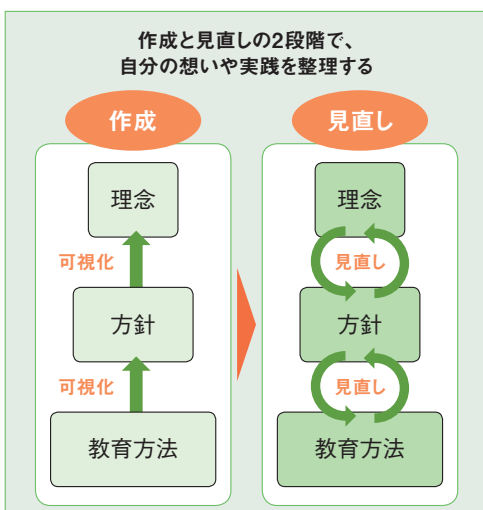
を体感し、栗田先生たちと共著で作成方法を紹介する本も出した先生だ。その魅力をこのように語る。

「他人から理念や方法を押し付けられるのではなく、自分の中にあるものを整理することで、やるべきことがはっきりしてきて、身の丈にあった教育改善をしていけるのです」

見込める効果はそれだけではない。「先生同士でTPチャートをシェアすれば、「この先生はこの理念の基にこういう方法を取っていたのか」とお互いの価値観や実践を理解しやすくなります。教育について話し合うときのコミュニケーションツールとしても機能します」（栗田先生）

そうであれば、学校改革の議論をするうえでも有効ではないだろうか。

TPチャートとは？



取材・文／松井大助 撮影／西山俊哉



教師のための「なりたい教師」になれる本！
栗田佳代子/吉田 壘/大野智久 編著

学校の先生の実例を交えながら、TPチャートの作成の仕方を紹介。TPチャートを使った研修会・勉強会のやり方も解説されている。